

名古屋大学

国際言語文化研究科

全学向け授業案内

「外国語特別研修コース」について

国際言語文化研究科全学向け授業は「外国語特別研修コース」からなっています。「外国語特別研修コース」はいわゆる演習を主体とした少人数による外国語授業です。皆さんの積極的な受講を期待しています。

〈学部学生の皆さんへ〉

「全学向け授業」として登録する場合は、本冊子に従って手続をしてください。全学教育科目の「言語文化Ⅱ」として登録する場合は、教養教育院作成の「履修に関する注意事項」に従って教養教育院事務室にて手続をしてください。

I. 授業科目（授業時間割表及び授業要覧は7ページ以降に掲載）

外国語特別研修コース

科 目		開講期間		科 目		開講期間	
		前期	後期			前期	後期
英 語	特別英語セミナー（Writing） a	○	—	ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語	Level 1 a	○	—
	特別英語セミナー（Writing） b	—	○		ロ シ ア 語	Level 1 b	—
	特別英語セミナー（Presentation） a	○	—	中 国 語 ス ペ イ ン 語	Level 2 a	○	—
	特別英語セミナー（Presentation） b	—	○		朝 鮮 ・ 韓 国 語	Level 2 b	—
	特別英語セミナー（Reading） a	○	—	ポ ル ト ガ ル 語	Level 1 a	○	—
	特別英語セミナー（Reading） b	—	○		Level 1 b	○	—
	特別英語セミナー（Certificate Tests） a	○	—	ラ テ ン 語 古 典 ギ リ シ ア 語	Level 1 a	○	—
	特別英語セミナー（Certificate Tests） b	—	○		イ タ リ ア 語	Level 1 b	—
	特別英語セミナー（Specific Purposes） a	本年度は開講しない		オ ラ ン ダ 語	Level 1	○	—
	特別英語セミナー（Specific Purposes） b	本年度は開講しない		ア イ ヌ 語	Level 1	—	○

注）Level 1, 2 は、この順で授業内容が高度になります。

II. 授業期間・休業日・休講日・授業時間帯

1. 授業期間

前期：2009年4月13日(月)～2009年7月22日(水)

後期：2009年10月1日(木)～2010年1月27日(水)

2. 休業日

夏季休業期間：2009年8月8日(土)～2009年9月30日(水)

冬季休業期間：2009年12月28日(月)～2010年1月7日(木)

3. 休講日

名大祭期間：2009年6月4日(木)午後～6月7日(日)

大学入試センター試験実施準備：2010年1月15日(金) (予定)

4. 定期試験期間

前期：2009年7月23日(木)～8月5日(水)

後期：2010年1月28日(木)～2月10日(水)

5. 授業時間帯

第1時限 8：45～10：15

第2時限 10：30～12：00

第3時限 13：00～14：30

第4時限 14：45～16：15

第5時限 16：30～18：00

III. 受講対象者

受講対象者は、本学の学部学生、大学院生、研究生等及び本学職員です。

ただし、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生は受講できません。

IV. 休講等

各授業科目の休講、教室変更、授業に関することは、全学教育棟本館1階「全学向け授業」掲示板（5ページ配置図参照）で通知します。

V. 成績の通知

成績評価の通知は以下のとおり行います。

1. 学部学生、大学院生、研究生等については、各部署長あてに通知します。
2. 職員については、本人に通知します。

VI. 受講の辞退

事情により学期途中で受講できなくなった場合には、文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口で交付される所定の「全学向け授業辞退届」を、必ず授業担当教員に提出して下さい。この手続きを行わずに受講放棄すると、以後、受講を認めないことがあります。

VII. 受講申込み手続き

外国語特別研修コース

特別英語セミナー

第2週〔4月20日(月)～4月24日(金)〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。

1. 受講申込カード(黄色の4連カード)配付場所及び申込場所
文系総合館1階 文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口（6ページ配置図参照）
2. 申込期間及び時間 期 間：2009年4月14日（火）、15日（水）
時 間：9：00～17：00

*英語受講申込カードは、この期間以外には配付しません。また、受講申込は、申込期間以降は受け付けませんので注意してください。

3. 受講申込カード記入・提出について

受講希望者は、「受講申込カード」に必要事項を記入のうえ、申込期間中に文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口提出してください。特に以下の①・②については、注意事項をよく読んで記入してください。提出の際には、本人保存用及び教員保存用の紙片を返却しますので、教員保存用の紙片は第1回目の授業時に授業担当教員に渡してください。また、本人保存用の紙片に記載してある受講受付番号により受講調整結果を掲示しますので、結果の確認には必ずその紙片を持参してください。なお、受講する授業が決定した後も、本人保存用紙片は保管しておいてください。

- ①『TOEIC等点数』：

「特別英語セミナー」の受講を希望する人は全て、TOEIC公開試験等の英語検定試験によって得た自分の英語力の点数を受講申請の際に記入せねばなりません。TOEIC等の受験は各自で行ってください。

TOEIC等の英語検定試験によって知り得た自分の点数あるいは級を確認して申請してください。なお、申請時に下記基準を満たしていることを証明する書類を持参してください。下記基準を満たしていない場合は、受付できません。

名 称	申 請 基 準
TOEFL-ITP	527以上
TOEFL-PBT	527以上
TOEFL-CBT	197以上
TOEFL-iBT	71以上
TOEIC	663以上

※いずれの検定試験も正規の公開試験の結果のみを規準とする（TOEFL-ITPを除く）。

- ②『希望するクラス』

受講したいクラスを1つ記入してください。

4. 受講調整結果の発表

受講希望者が受講可能人数を超える場合は、提出された「受講申込カード」のデータをもとに受講調整を行い、各授業の受講者を決定します（決定後の問い合わせには応じません）。受講調整の結果は、4月20日(月)9時までに全学教育棟本館1階「全学向け授業」掲示板（5ページ配置図参照）に掲示します。

定員に限りがあるので、受講希望者が全員受講できるとは限りません。

5. 第1回目の授業を無断で欠席した場合は、受講放棄とみなしますので、ご注意ください。この件に関する質問に対して、文系教務課（国際言語文化研究科）は対応しません。
6. 決定された授業からの辞退は認められません。
7. 外国語特別研修コースの特別英語セミナーは、授業の種類にかかわらず、一期に一クラスしか受講できません。

英語以外の外国語

全学向け授業としては、第2週〔4月20日(月)～4月24日(金)〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。なお、希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。

1) 受講申込カード配付場所

文系総合館1階 文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口（6ページの配置図を参照）

2) 配付期間及び時間

期 間：2009年4月13日(月)～24日(金)

時 間：平日 9：00～17：00

3) 配付カード

青色（3連）

4) 受講登録手続

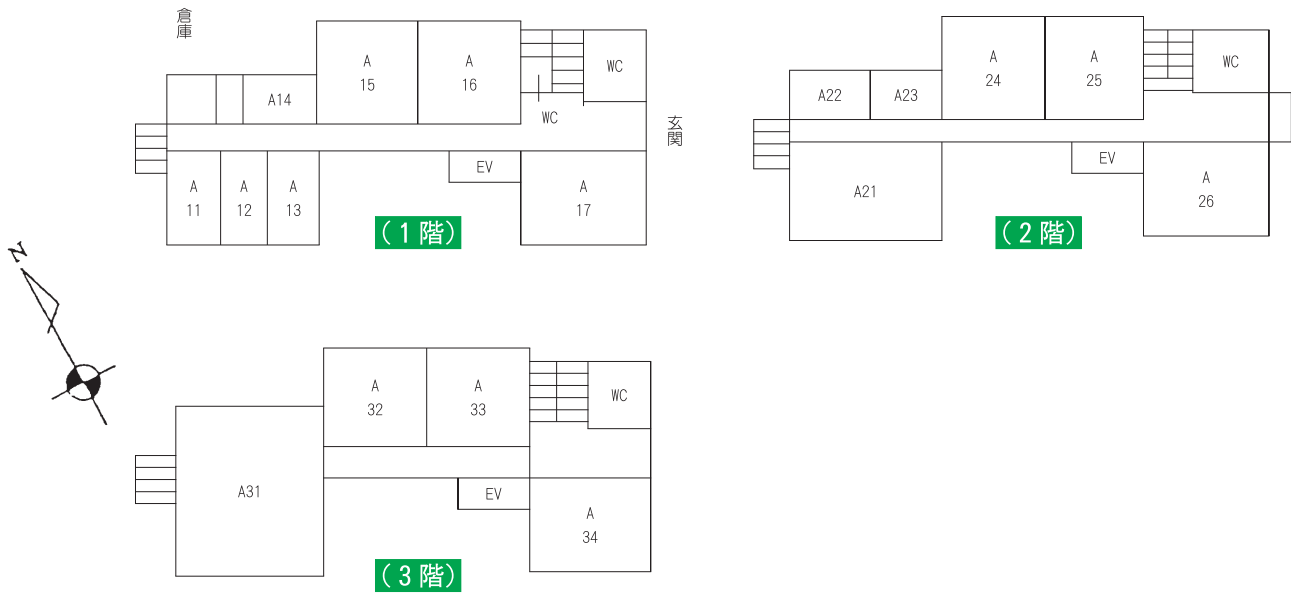
第1回目の授業時〔4月20日(月)～24日(金)〕に受講が許可された授業科目について、「受講申込カード」のうち教員保存用の紙片を授業担当教員に渡し、事務室保存用の紙片を文系教務課事務室（国際言語文化研究科）窓口の「受講申込カード提出用ボックス」に提出してください（締切厳守）。

期 間：2009年4月20日(月)～4月27日(月)

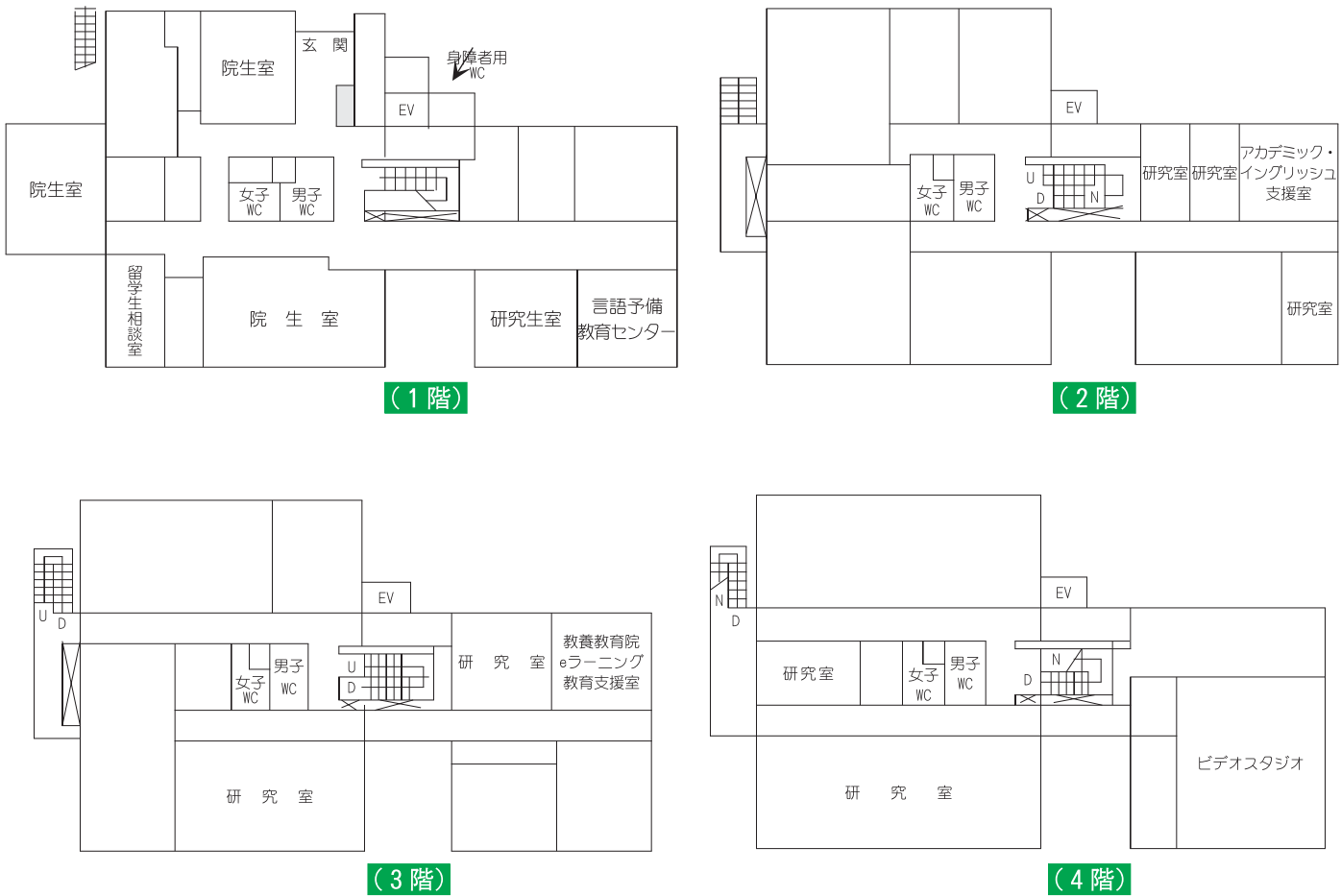
時 間：平日9：00～17：00

全学教育棟・国際言語文化研究科棟及び文系総合館教室等配置図

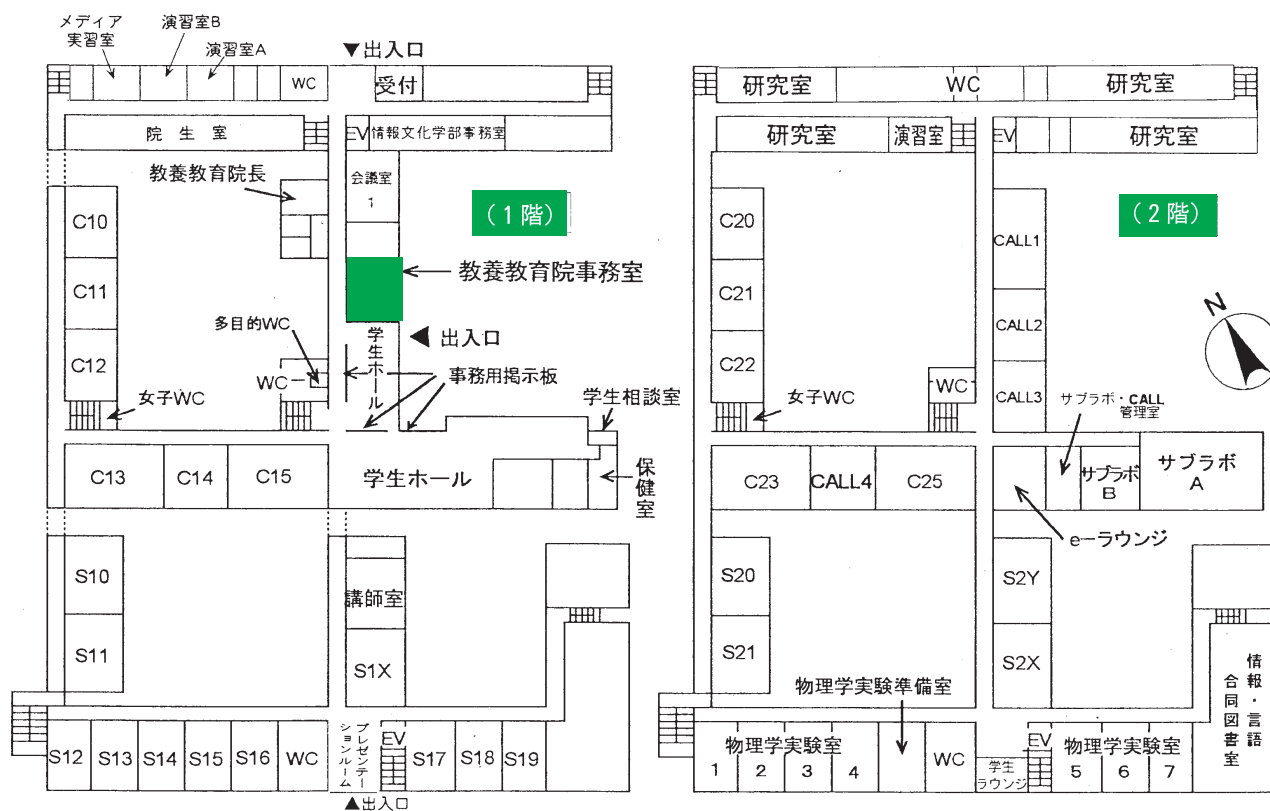
《全学教育棟 A館》



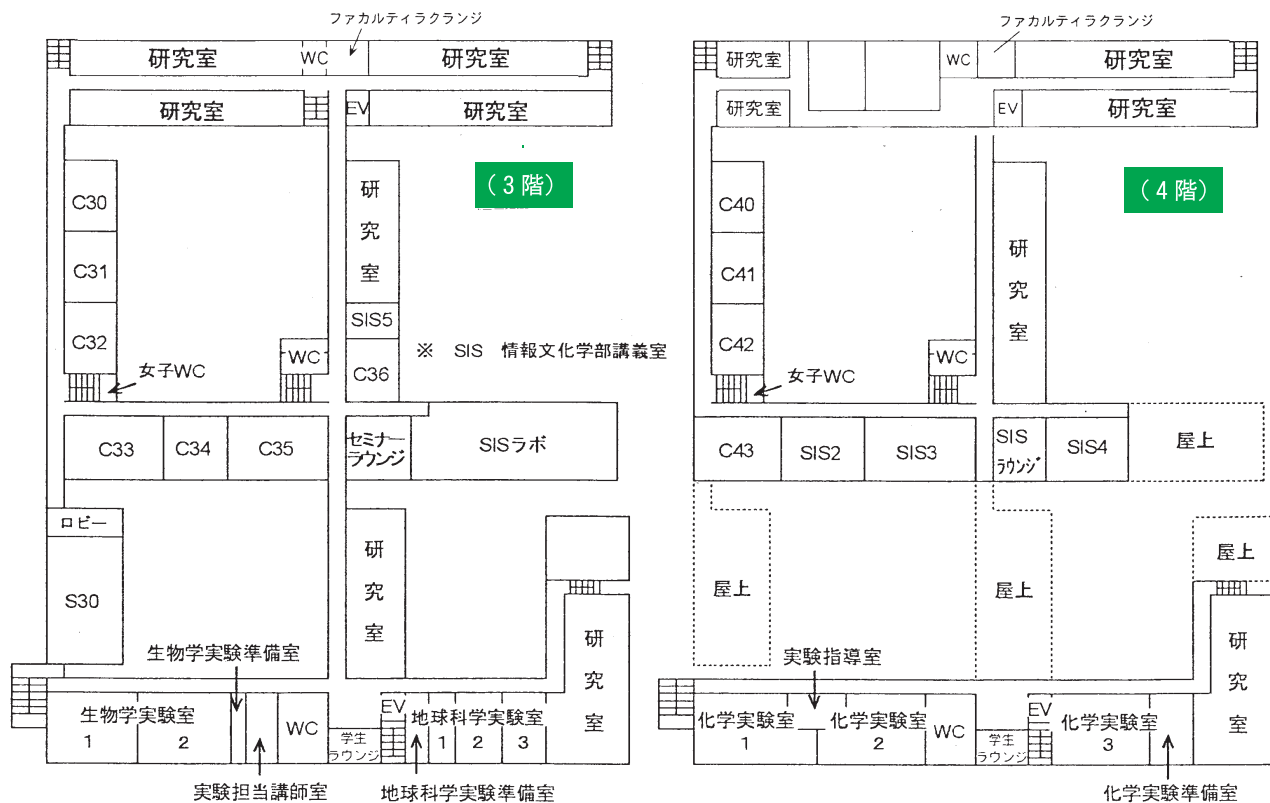
《国際言語文化研究科棟》



《全学教育棟本館（情報文化学部）》



プレゼンテーション
ルーム「clas」



文系総合館 1F



(1階)



2009年度前期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

授 業 科 目		記号	担当教員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	特別英語セミナー (Writing) a	A	MORITA CHUA LIANG	火 (4)	S14	20	
	特別英語セミナー (Writing) a	B	POTTER SIMON R.	水 (4)	S18	20	
	特別英語セミナー (Writing) a	C	POTTER SIMON R.	木 (4)	S19	20	
	特別英語セミナー (Presentation) a	D	STAVOY JOSEPH A.	水 (3)	S17	20	
	特別英語セミナー (Presentation) a	E	MORITA CHUA LIANG	木 (2)	A13	20	
	特別英語セミナー (Presentation) a	F	STAVOY JOSEPH A.	金 (1)	S17	20	
	特別英語セミナー (Reading) a	G	LONGCOPE PETER D.	火 (1)	C36	20	
	特別英語セミナー (Reading) a	H	LONGCOPE PETER D.	木 (1)	S18	20	
	特別英語セミナー (Reading) a	I	POTTER SIMON R.	木 (5)	A15	20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) a	J	岩 城 奈 巳	火 (2)	CALL4	20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) a	K	松 原 緑	火 (2)	A13	20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1a		林 久 博	水 (1)	S15	20	後期(高畑)に継続
	ドイツ語 Level 2a		M. Koch	金 (3)	S14	20	後期に継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1a		松 浦 宏 信	火 (5)	S13	20	後期に継続
	フランス語 Level 2a		DELBARRE FRANCK	月 (5)	A12	20	後期に継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1a		郡 敏 子	火 (2)	A12	20	後期に継続
	ロシア語 Level 2a		山崎 タチアナ	金 (3)	S13	20	後期に継続
中 国 語	中国語 Level 1a		加 納 光	水 (1)	S18	20	後期に継続
	中国語 Level 2a		劉 欣	水 (3)	S18	20	後期に継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1a		宮 下 克 子	水 (4)	S17	20	
	スペイン語 Level 2a		川 田 玲 子	木 (4)	S18	20	
朝 鮮 ・ 韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1a		崔 昇 浩	金 (3)	S18	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		李 光 濟	金 (4)	C11	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		鄭 芝 淑	木 (5)	演習室A	20	後期に継続
ポ ル ト ガ ル 語	ポルトガル語 Level 1a		重 松 由 美	木 (2)	A12	20	
	ポルトガル語 Level 1b		重 松 由 美	木 (3)	A12	20	
ラ テ ン 語	ラテン語 Level 1a		有 川 貫太郎	木 (4)	CALL2	20	後期に継続
古 典 ギ リ シ ャ 語	古典ギリシャ語 Level 1a		有 川 貫太郎	水 (4)	CALL2	20	後期に継続
オ ラ ン ダ 語	オランダ語 Level 1		小 坂 光 一	水 (2)	CALL2	20	
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1a		A. Sciuca	水 (4)	S19	20	後期に継続

注) 講義室の表示について

- 「C10」(Cで始まるもの), 「CALL 1」(CALL教室): 全学教育棟本館
- 「A34」(Aで始まるもの): 全学教育棟A館
- 「S19」(Sで始まるもの): 全学教育棟本館南棟
- 「演習室A」: 全学教育棟本館北棟1階

2009年度後期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担 当 教 員	曜 日 (時 限)	教 室	定 員	備 考
英 語	特別英語セミナー (Writing) b	A	STAVOY JOSEPH A.	火 (3)		20	
	特別英語セミナー (Writing) b	B	LONGCOPE PETER D.	水 (3)		20	
	特別英語セミナー (Writing) b	C	LONGCOPE PETER D.	木 (2)		20	
	特別英語セミナー (Presentation) b	D	POTTER SIMON R.	月 (4)		20	
	特別英語セミナー (Presentation) b	E	POTTER SIMON R.	水 (2)		20	
	特別英語セミナー (Presentation) b	F	LONGCOPE PETER D.	木 (5)		20	
	特別英語セミナー (Reading) b	G	MORITA CHUA LIANG	火 (2)		20	
	特別英語セミナー (Reading) b	H	MORITA CHUA LIANG	水 (4)		20	
	特別英語セミナー (Reading) b	I	STAVOY JOSEPH A.	金 (2)		20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) b	J	岩 城 奈 巳	火 (2)		20	
	特別英語セミナー (Certificate Tests) b	K	松 原 緑	火 (2)		20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1b		高 畑 祐 人	火 (1)		20	前期(林)から継続
	ドイツ語 Level 2b		M. Koch	金 (3)		20	前期から継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1b		鶴 巻 泉 子	月 (5)		20	前期から継続
	フランス語 Level 2b		DELBARRE FRANCK	月 (5)		20	前期から継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1b		SAVELIEV IGOR	火 (3)		20	前期から継続
	ロシア語 Level 2b		山 崎 タチアナ	金 (3)		20	前期から継続
中 国 語	中国語 Level 1b		加 納 光	水 (2)		20	前期から継続
	中国語 Level 2b		前 田 光 子	月 (3)		20	前期から継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1b		A. Villalobos	水 (4)		20	
	スペイン語 Level 2b		西 村 秀 人	木 (4)		20	
朝 鮮 ・ 韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1b		金 元 榮	金 (3)		20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		崔 昇 浩	金 (4)		20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		鄭 芝 淑	木 (5)		20	前期から継続
ラ テ ン 語	ラテン語 Level 1b		有 川 貫太郎	木 (4)		20	前期から継続
古 典 ギ リ シ ャ 語	古典ギリシャ語 Level 1b		有 川 貫太郎	水 (4)		20	前期から継続
ア イ ヌ 語	アイヌ語 Level 1		小 坂 光 一	月 (2)		20	
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1a		A. Sciuca	水 (4)		20	前期から継続

注) 後期授業の使用教室については、「国際言語文化研究科全学向け授業案内 No. 61(2009年度後期発行)」に掲載します。

〈外国語特別研修コース〉

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
特別英語 セミナー (Writing) a	MORITA CHUA LIAN	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい The aim of this class is to help students develop their writing skills.</p> <p>授業内容 The Curriculum Cycle will be used in this class. The four stages of the Curriculum Cycle are: building up the field, modeling the text type, joint construction and independent writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Building the field. In this stage, the aim is to make sure that students have enough background knowledge of the topic to be able to write about it. 2. Modeling the text type. In this stage, the aim is for students to become familiar with the purpose, overall structure and linguistic features of the type of text they are going to write. 3. Joint construction. Here, the instructor and students write a text together, so that students can see how the text is written. 4. Independent writing. At this stage, students write their own text. <p>成績評価の方法 50% participation, 50% examination.</p>
特別英語 セミナー (Writing) a	POTTER SIMON R.	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい The aim of this course is to make improvements in writing in English.</p> <p>履修条件・関連する科目等 Please make sure that you have met the university's requirements for taking this course.</p> <p>授業内容 As part of the 'Language and Culture II' category of English courses, this seminar will be devoted to writing and improving essays. Each week, one of the dialogs addressing issues or themes which can be linked to academic disciplines in the course book will be assigned, and students will need to write an essay of roughly 300 words and submit it at the beginning of the class meeting. Throughout the term, the teacher will give advice about how to write essays of an academic nature, what types of likely problems to look out for (spelling, grammar, punctuation, etc.), and how to structure a term paper or thesis. Please note that no late essays – that is, any time after the first fifteen minutes of class – will be accepted.</p> <p>成績評価の方法 67% will be based on the weekly essays, and 33% will be from an essay to be written on a topic given during the 'examination' class period.</p> <p>教科書 The book for the course will be made available from the first class meeting and is expected to cost less than 3000 yen.</p> <p>参考書 At least one dictionary that is useful for working with the English language will be helpful.</p> <p>注意事項 Be timely with the work and keep a steady pace.</p> <p>受講者へのメッセージ Please be prepared to put in a good effort and be ready to use the English language to write about a variety of serious topics. This will not be a remedial writing course, so the teacher will not be 'correcting' or otherwise working in a detailed manner with individual essays, but rather checking them for factual content, argumentative validity, creativity, and such like. Also, please be advised that the teacher has had over twenty years of professional experience as a writer and editor in scholarly communities and learned the trades at a very high-level university and from an editor of a professional journal, so you will be getting very good advice.</p>
特別英語 セミナー (Writing) a	POTTER SIMON R.	木(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい The aim of this course is to make improvements in writing in English.</p> <p>履修条件・関連する科目等 Please make sure that you have met the university's requirements for taking this course.</p> <p>授業内容 As part of the 'Language and Culture II' category of English courses, this seminar will be devoted to writing and improving essays. Each week, one of the dialogs addressing issues or themes which can be linked to academic disciplines in the course book will be assigned, and students will need to write an essay of roughly 300 words and submit it</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
特別英語 セミナー (Writing) a	POTTER SIMON R.	木(4)	20	<p>at the beginning of the class meeting. Throughout the term, the teacher will give advice about how to write essays of an academic nature, what types of likely problems to look out for (spelling, grammar, punctuation, etc.), and how to structure a term paper or thesis. Please note that no late essays - that is, any time after the first fifteen minutes of class - will be accepted.</p> <p>成績評価の方法 67% will be based on the weekly essays, and 33% will be from an essay to be written on a topic given during the 'examination' class period.</p> <p>教科書 The book for the course will be made available from the first class meeting and is expected to cost less than 3000 yen.</p> <p>参考書 At least one dictionary that is useful for working with the English language will be helpful.</p> <p>注意事項 Be timely with the work and keep a steady pace.</p> <p>受講者へのメッセージ Please be prepared to put in a good effort and be ready to use the English language to write about a variety of serious topics. This will not be a remedial writing course, so the teacher will not be 'correcting' or otherwise working in a detailed manner with individual essays, but rather checking them for factual content, argumentative validity, creativity, and such like. Also, please be advised that the teacher has had over twenty years of professional experience as a writer and editor in scholarly communities and learned the trades at a very high-level university and from an editor of a professional journal, so you will be getting very good advice.</p>
特別英語 セミナー (Presentation) a	STAVOY JOSEPH. A	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい This course will allow students the opportunity to research, develop, discuss and write about topics concerning personal interests, popular culture, controversies, and current events. Students then will have opportunities to work in small groups editing, discussing and ultimately presenting their projects. All four skill groups – listening, reading, writing and speaking will be practiced in this class.</p> <p>授業内容 The presentation topics below are tentative and are subject to change. Education Travel and Culture Health and Environment Society Relationships Media and Technology Music and Movies</p> <p>成績評価の方法 Students will be assessed and graded based on class participation, attendance, presentations, completion of homework and examinations.</p>
特別英語 セミナー (Presentation) a	MORITA CHUA LIAN	木(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい The aim of this class is to help students develop their presentation skills.</p> <p>授業内容 We will discuss the basic guidelines for designing a presentation and the delivery of the presentation. In addition, communicative competence is emphasised in this class. Communicative competence is what a speaker needs to know to be able to communicate correctly and appropriately. The following three aspects of communicative competence are particularly relevant:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Linguistic competence, which means that the forms, inflections and sequences used to express the message are grammatically correctly. 2. Sociolinguistic competence, which means that the expression of the message is appropriate in terms of the person being addressed and the overall circumstances and purpose of communication. 3. Discourse competence, which means that the selection, sequence and arrangement of words and structures are clear and effective means of

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
特別英語 セミナー (Presentation) a	MORITA CHUA LIAN	木(2)	20	expressing the intended message. 成績評価の方法 50% participation, 50% examination
特別英語 セミナー (Presentation) a	STAVOY JOSEPH A	金(1)	20	本講義の目的およびねらい This course will allow students the opportunity to research, develop, discuss and write about topics concerning personal interests, popular culture, controversies, and current events. Students then will have opportunities to work in small groups editing, discussing and ultimately presenting their projects. All four skill groups – listening, reading, writing and speaking will be practiced in this class. 授業内容 The presentation topics below are tentative and are subject to change. Education Travel and Culture Health and Environment Society Relationships Media and Technology Music and Movies 成績評価の方法 Students will be assessed and graded based on class participation, attendance, presentations, completion of homework and examinations.
特別英語 セミナー (Reading) a	LONGCOPE PETED D.	火(1)	20	本講義の目的およびねらい As this is an advanced class on reading, the aims of the course will revolve around aiding students in more quickly and completely understanding academic texts written in English. 授業内容 In this class, we will work with both chapters from academic textbooks and articles from academic journals. We will look at how to make use of all aspects of the text in order to aid understanding. Other textual concerns that may have an impact on understanding that will be touched on are conceptual development, critical reading, vocabulary, and style. 成績評価の方法 Grades will be based on class participation, scores of in-class tests and exams, and the quality and timeliness of homework assignments.
特別英語 セミナー (Reading) a	LONGCOPE PETED D.	木(1)	20	本講義の目的およびねらい As this is an advanced class on reading, the aims of the course will revolve around aiding students in more quickly and completely understanding academic texts written in English. 授業内容 In this class, we will work with both chapters from academic textbooks and articles from academic journals. We will look at how to make use of all aspects of the text in order to aid understanding. Other textual concerns that may have an impact on understanding that will be touched on are conceptual development, critical reading, vocabulary, and style. 成績評価の方法 Grades will be based on class participation, scores of in-class tests and exams, and the quality and timeliness of homework assignments.
特別英語 セミナー (Reading) a	POTTER SIMON R.	木(5)	20	本講義の目的およびねらい The aims of this course are to do a substantial amount of reading, to learn some things about contemporary America, and to get some insights into what living in a different country can be like. 履修条件・関連する科目等 Please make sure that you have met the university's requirements for taking this course. 授業内容 As part of the 'Language and Culture II' category of English courses, this seminar will be devoted to reading a book about contemporary America and using a related literary dictionary. At the beginning of

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
特別英語 セミナー (Reading) a	POTTER SIMON R.	木(5)	20	<p>the course, a schedule listing which chapters are to be read for each week will be handed out, and weekly quizzes to check for understanding, knowledge, and opinions concerning the assigned chapter(s) will be given in class. The remainder of each class meeting will be devoted to explanations and/or answering questions from the students. At the end of the course will be a general, comprehensive examination about the most important messages etc. that the reading material offers. Also, please note that the quizzes which are missed cannot be made up.</p> <p>成績評価の方法 67% will be based on the weekly quizzes, and 33% will be from the final examination to be taken during exam week.</p> <p>教科書 The reading materials for this course will be available from the first class meeting and are expected to cost less than 3000 yen.</p> <p>参考書 At least one dictionary which will be useful for working with the English language.</p> <p>注意事項 Missed quizzes cannot be made up.</p> <p>受講者へのメッセージ Please do the readings and come to class prepared. This is a good chance to learn about challenges which people might experience when living in another country for a significant period of time and will also expose you to critical thinking.</p>
特別英語 セミナー (Certificate Tests) a	岩 城 奈 巳	火(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい 本授業は、主に留学を目指す学生を対象に、TOEFL受験の準備を行う。</p> <p>履修条件・関連する科目等 英語に対する意欲。TOEFL-iBTで71点、(CBM:197、PBT/ITP:530) TOEIC:672点、英検準1級以上が望ましい。</p> <p>授業内容 毎回、TOEFLに関する与えられた課題(リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング)について、取り組む。授業では、グループワーク、ペアワークを主に行い、クラスの仲間と協力し、共に学ぶスタイルを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: TOEFLとは 2. 項目別にTOEFLを検証 3. 時間をはかっている練習 <p>課題も毎回提出する。</p> <p>成績評価の方法 出席、授業態度を重視する。毎回の簡単なテスト、グループワーク、提出物と試験結果をあわせた総合評価をおこなう。</p> <p>教科書 随時プリント配布またはウェブ使用する。</p> <p>参考書 随時紹介する。</p> <p>注意事項 遅刻厳禁。欠席3回で単位放棄とみなす。</p> <p>受講者へのメッセージ この授業は留学を目指す学生が主に対象になります。個々の目標に向かってがんばって取り組んで下さい。また、一人で机にむかって黙々と与えられた課題に取り組むことは自分の時間に来るので、このクラスではクラスメートと情報交換をしたり、勉強法を学びあったりしながら本試験の準備に取り組んでいきます。</p>
特別英語 セミナー (Certificate Tests) a	松 原 緑	火(2)	20	<p>授業内容は、別途「全学向け授業」掲示板へ掲示します。</p>
ドイツ語 Level 1a	林 久 博	水(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい 新たにドイツ語を習う学生ばかりではなく今一度基礎からドイツ語をやり直したい学生も対象とする、ドイツ語の基礎を学ぶための科目です。バランスよくドイツ語を学べるよう基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行います。また、ドイツ語世界が身近になるよう、視聴覚メディアなどを通じて文化・風俗・社会事情などについても学び、国際的視野を涵養する一歩としたい。目標は「ドイツ語に触れる」です。</p> <p>履修条件・関連する科目等 後期は高畑先生(火・1)が担当します。</p> <p>授業内容 本授業ではドイツ語で書かれた簡単な文章をもとに、ドイツ語の初歩を学んでいきます。よくドイツ語は難しいと言われますが、それはドイツ語文法に曖昧さが少ないことに起因しています。一歩一歩、着実に学習し</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ドイツ語 Level 1a	林 久博	水(1)	20	<p>ていけば、ドイツ語は必ず身に付けられます。授業では、簡単に文法説明を行った後、練習問題を繰り返し行い、ドイツ語表現を身に付けられるようにします。また、授業中にドイツ文化紹介も行う予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語のアルファベット 2. ドイツ語の発音の仕方 3. 現在人称変化 I 4. 定冠詞と名詞・複数形 5. 不定冠詞と冠詞類・並列接続詞 6. 現在人称変化 I I・命令形 7. 人称代名詞・前置詞 <p>成績評価の方法 期末試験80パーセント、出席20パーセント 教科書 『ともかく話そうドイツ語』(小黑びるぎった/日野安昭/佐藤方代著、郁文堂、2,500円) 参考書 独和辞典(どれを購入すべきかは授業中に説明する) 注意事項 独和辞典を必ず携行すること</p>
ドイツ語 Level 2a	M. Koch	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業では、すでに習得したドイツ語の知識を用いて、日常的なドイツ語をさらに実践的に学習します。あわせて、ドイツ事情について学びます。</p> <p>履修条件・関連する科目等 ドイツ語初級能力を持っている学生のための授業です。</p> <p>授業内容 自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。前期で学習する場面は、以下のとおりです。 (1) 人と知り合う (2) 趣味 (3) 持ち物 (4) ショッピングセンターで (5) 町で</p> <p>成績評価の方法 平常点70%、期末試験30% 教科書 『aktiv. de アクティブに使うドイツ語』(三宅恭子、M. Koch 著、三修社) 参考書 独和辞典および和独辞典 注意事項 学生と教師間の会話だけでなく、隣の人とペアを組んで対話をしながら表現を覚え、また文法規則を応用できるような授業を目指します。学生の積極的な授業への参加が求められます。家での復習が重要となります。</p>
フランス語 Level 1a	松浦宏信	火(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい フランス語の基礎的な文法知識を獲得しつつ、それと同時に初歩的な運用能力も修得することを目指す。また、フランス語圏の社会と文化について、基礎的な知識を与える。</p> <p>履修条件・関連する科目等 新たにフランス語を始める学生のためのクラス。</p> <p>授業内容 文法、読解、文化、コミュニケーションの四つの要素を豊かに取り入れた総合的な教材を使い、週一度の授業で一年間かけてフランス語の基礎を修得する。後期月曜5限の鶴巻泉子先生の授業に接続する。週一コマのクラスであるが、この授業にきちんとついてきて、教科書を使って自習すれば、一年後にはフランス語の文章を読んだり、フランス語会話がそこそこできたりするまでになる。文法項目は1年次の終わりに、初級文法を修了する。</p> <p>成績評価の方法 平常点と学期末の筆記試験による。 教科書 『新CDフランス語文法』大木充他著(朝日出版社) 参考書 授業の中で適宜指示する。 注意事項 定員は20名。 受講者へのメッセージ 教師と学生との出会いは、常に一期一会です。輝かしい青春を送っておられる皆さんとのこの貴重な出会いの機会を、ぜひ実り多いものにしたいと思います。そして、皆さんの大学時代の思い出の片隅にほんのわずかでも残れるような、そんな授業ができればと考えています。</p>
フランス語 Level 2a	DELBARRE FRANCK	月(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業はフランス語の日常会話でよく使われる表現と語彙を身につけることと自発的な発言にたどりつくことを目指しています。初級レベルであま</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
フランス語 Level 2a	DELBARRE FRANCK	月(5)	20	<p>り触れない接続法、条件法といった様々な言語項目の使い分けの習得も目指しています。</p> <p>授業内容 この授業はコミュニケーション能力を上達させる様々な活動に基づいています。聞き取りと会話が中心で、日常生活に役立つ簡単な文章の執筆も練習します。どのコミュニケーション活動も日常生活と日常会話のコミュニケーションの場面に基づいています。必要に応じて、教科書以外の教材を使うこともあります。</p> <p>成績評価の方法 小テスト：40%、最終試験：40%、コミュニケーション評価（口頭）：20%、出席率により、10点までのボーナスも合計に加わります。</p> <p>教科書 なし。必要に応じてプリントを配ります。</p> <p>受講者へのメッセージ 授業中ではなるべく辞典の使用を避けるようにするので、毎回の授業の語彙や表現などを身につける必要があります。</p>
ロシア語 Level 1a	郡 敏子	火(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい ロシア語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくロシア語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行う。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することによりロシア語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「ロシア語に触れる」である。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「この人は誰ですか?」：所有代名詞（誰それの）など 2. 「知ってますか?」：動詞の現在変化など 3. 「ノートは机の中です」：名詞の前置格（場所の表現）など 4. 「私は東京から来ました」：国籍・出身地の表現など 5. 「すみません、入っていいですか?」「今日は試験です」；動詞過去形など 6. 「ロシア語はおもしろい」：形容詞の性数変化など 7. 「頭は何のためにあるのでしょうか?」：身体を表わす語彙など 8. 「ご兄弟はいらっしゃいますか?」：所有の表現など 9. 「今私は東京にいます」：手紙の表現など 10. 「紅茶とコーヒーどちらですか?」：名詞の対格など 11. 「どこにいたの?」「これはおいくらですか?」：買い物、食事の表現 12. 「お店はどこでしょうか?」：運動の表現（歩いて行く） 13. 「あしたは私は出張です」：動詞の未来形など 14. 「5時に会いましょう」：曜日、数字（1以上） 15. 「私はあさってロシアへ行きます」：運動の表現（乗り物で行く） <p>成績評価の方法 普段の授業での取り組みぐあいと定期試験で評価する。</p> <p>教科書 米重文樹、ピョートル・トマルキン「話すロシア語入門」白水社</p> <p>参考書 辞書は『博友社ロシア語辞典』『研究社露和辞典』『岩波ロシア語辞典』のうちから一冊を購入してください。</p> <p>文法については、随時次のものを参照してください：佐藤純一『NHK新ロシア語入門〔CDブック〕』日本放送出版協会。</p> <p>注意事項 授業での口頭練習に積極的に取り組んで、楽しみながら着実にロシア語を身につけましょう。</p>
ロシア語 Level 2a	山 崎 タチアナ	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業は、Level 1コースを終えた学生を対象にしている。ネイティブが担当するので、生きた会話を授業の軸足とし、90分間を積極的な質疑応答時間として構成する。目標は、ロシア語の文法の難点を克服して、日常のフレーズを正しく使うこと。</p> <p>授業内容 ロシア語文法を確認しながら、日常の会話によく使われるフレーズを出来るだけたくさん覚えて、それらを用いる練習問題を行う。具体的な流れは、以下のようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のはじめに身の上話に関して簡単なやり取りを行う。 2. 「今日のフレーズ」を確認の上、練習問題をやりながら会話を進める。 <p>15回分の授業詳細：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CЯ動詞、その1、「始まると終わる」 2. CЯ動詞、その2、「居る、位置する」 3. 「見る、眺める」と「見える、会う」 4. 時の表現、その1、「何時とどれ位」 5. 時の表現、その2、「時刻」

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ロシア語 Level 2a	山 崎 タチアナ	金(3)	20	<p>6. 時の表現、その3、「前に、後に、～の間に」 7. 前半のかまとめと小テスト 8. 理由の表現、「～のお陰で、～の所為で」 9. 「なぜ」と「どうして」の表現 10. 目的の表現、「何のために」 11. 仮定法の表現、その1、「約束をしたなら～」 12. 仮定法の表現、その2、「行けたのに～」 13. 無人称文の与格、「困難だ」 14. 禁止の表現、「してはいけない」 15. 前期のまとめ、定期試験</p> <p>成績評価の方法 評価の方法は、出席を重視すること、および試験期間内のマンツーマンでの口頭試験の2つの基準から成り立つ。 教科書 毎回、プリントを配布いたします。</p>
中国語 Level 1a	加 納 光	水(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい 第三外国語として、初めて中国語を学ぼうとする学習者を対象とする。 この授業においては、中国語の発音及び基礎的な文法事項を学習し、中国語の初級段階に必要な基礎学力の養成を目指す。 履修条件・関連する科目等 中国語 Level 1b はこの中国語 Level 1a を継続するものです。 授業内容 中国語 Level 1a の授業では、まず4 1 1の音節を、声調を伴って正確に発音できるよう指導した上で、基本的な文法項目を順次学習する。 教科書の内容に関連して、中国の風俗・習慣・文化などの理解も促す。 具体的な授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語概説 2. 発音(1) 単母音、声調 ほか 3. 発音(2) 複母音、鼻母 ほか 4. 発音(3) 子音、ピンイン表記の規則 ほか 5. 発音(4) 儿化、変調 ほか 6. 挨拶表現のいろいろ、声調の組み合わせ ほか 7. 指示詞、人称代名詞 ほか 8. 動詞述語文、語気助詞 ほか 9. 形容詞述語文、程度副詞 ほか 10. 所有表現、存在表現 ほか 11. 時刻と時間表現、近接未来の表現 ほか 12. まとめ・復習 <p>成績評価の方法 平常点〔出欠席、授業態度〕(50%)と期末試験(50%)による。 教科書 『ようこそ、中国語の世界へ』加納光・白木通・成戸浩嗣(白帝社) 参考書 必要に応じて授業で紹介する。 受講者へのメッセージ 授業上の注意 ・日々の予習・復習を欠かさずに、楽しく学んでください。 ・発音の練習に多くの時間をかけてください。</p>
中国語 Level 2a	劉 欣	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業はかなり高度な聴解力と口頭表現力など特定の運用能力にしばって行われ、受講者の専門的要請にも対応できる高度な実践的運用能力の養成を目指す。 学習意欲が旺盛でなければ授業についていくことはできない。 目標は「中国語を活かす」である。 履修条件・関連する科目等 中国語または中国に対して興味を持ち、且つ学習意欲が旺盛であること。 中国語の初級(発音・文法事項等)を習得していること。 授業内容 この授業は中国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし、「習う中国語から使う中国語」を指向する。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の中国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するため、できるだけ中国語を使うようにしたい。 言語文化科目Ⅰ、中国語 Level 1 に引き続き、さらに中国語世界の理解を深めていきたい。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
中国語 Level 2a	劉 欣	水(3)	20	<p>成績評価の方法 欠席が授業回数の3分の1以上の場合、不合格とする。学期末レポートの成績(70%)及び出席点(30%)により評価する。</p> <p>教科書 随時、プリント教材を配布する。</p> <p>参考書 必要に応じて授業で紹介する。</p> <p>受講者へのメッセージ 授業上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の授業でガイダンスを行います。 ・参考書についてはガイダンスで説明します。 ・高度な聴解力、口頭表現力の養成を目指すので、中国語の基礎的な力が身に付いていること、積極的に授業に参加することが受講の条件です。
スペイン語 Level 1a	宮下克子	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>スペイン語は三億人以上の人々によって話されている言語であり、国際化著しい今日の社会を舞台にめざましい活躍が期待される皆さんにとって、これを習得することは大変に有益なことと思われる。本授業においては、スペイン語の基礎文法を学ぶと共に、日常生活や旅行等に必要簡単な会話を身につけるべく、ビデオ等の教材を用いて多角的に学習を進める。テキスト、ビデオはスペイン及びラテンアメリカ諸国に関する情報を豊富に含むものであり、その雰囲気、文化、歴史等に対する学習者の興味を喚起することは間違いない。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>特にありません。初心者をも基本的に対象としますが、かつて学んだことがあるがあらためてもう一度スペイン語を学びたいという人も歓迎します。</p> <p>授業内容</p> <p>LECCION 1 「空港でタクシーに乗る折の会話」及び、母音、子音の読み方、音節、アクセント等、スペイン語の発音、読み方の学習。</p> <p>LECCION 2 「ホテルのフロントでの会話」及び、男性名詞・女性名詞、複数形、冠詞、主格人称代名詞、動詞 ser の活用と用法。</p> <p>LECCION 3 「大学の外人コース受付での会話」及び、動詞 estar の活用と用法、疑問文・否定文、形容詞。</p> <p>LECCION 4 「大学のキャンパスでの会話」及び、規則活用動詞の活用。国名・国籍。</p> <p>LECCION 5 「授業の中の会話」及び、tener, ir, venir の活用、数字、時刻の言い方。</p> <p>LECCION 6 「キャンパスでの会話」及び、語幹変化動詞の活用、その他の不規則動詞、直接・間接目的格人称代名詞。</p> <p>LECCION 7 「サッカー場での会話」及び、所有詞、指示語、比較級、最上級。及び、ビデオ(ESPANA VIVA)を用いて、挨拶、買い物、紹介、などの簡単な会話を学ぶ。</p> <p>成績評価の方法 1. 出席状況(30%) 2. 学習に向かう姿勢(10%) 3. レポート(60%)</p> <p>教科書 ESPANOL VIVO(生き生きスペイン語) 福嶋教隆 朝日出版社</p> <p>参考書 辞書: 例えば『現代スペイン語辞典』白水社など。</p> <p>授業時にプリント等を配布する。</p> <p>注意事項 辞書に関しては、上記の『現代スペイン語辞典』に限るものではない。スペイン語を学習する上での各々の意図に応じて、あるいは好みに沿って選んでください。</p> <p>受講者へのメッセージ 授業時には辞書を携帯し、熱意を持って学習に臨むことを期待する。</p> <p>スペイン語の読み方は、所謂ローマ字読みであり、日本人にとってはさほど難しいものではない。特別な読み方は、ほんの数種類に過ぎない。またあまり発音を気にしなくとも、ネイティブの人々に理解してもらえよう。そういった意味では、我々にとって比較的近づきやすい言語と言えよう。主語を省くことができ、語順にも柔軟性がある。名詞に性があること、形容詞が後置されることなどは、英語と異なっている。また表現する際の発想においては、英語に比べると、より日本語に近いように思う。</p> <p>スペインは世界遺産の多い国として知られている。イスラム支配の影響もあり、ヨーロッパの中でも際立って個性的な文化を育んできた。造形に優れた民族であり、殊に近代においてはピカソ、ダリ、ミロといった優れた芸術家を輩出している。建築家ガウディも、また、彼が設計し今も建築途上の大聖堂「サグラダ・ファミリア」も大変に有名である。音楽の分野でもグラナドスやタレガといった作曲家、イエペス、セゴビアといった世界的な演奏</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 1a	宮 下 克 子	水(4)	20	<p>家を生んできた。絵画、音楽、建築に興味を持つ人々にとっては興味の尽きない国であろう。サッカーファンは、レアル・マドリードやバルサの国として親しみを感じるはずである。</p> <p>ラテンアメリカ諸国は、成熟途上の国特有の魅力に満ちた社会を有している。そこには神秘的な自然と、日本に住む我々の想像を超える現実が存在している。その経済・政治に興味を抱く人は多いであろう。音楽、文学といった文化の面でも、多様な展開を見せている。スペイン語を学ぶことは、こうした魅力的なスペインやラテンアメリカ世界に近づく確実な一歩となるはずである。</p>
スペイン語 Level 2a	川 田 玲 子	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 一年次またはスペイン語 Level 1 で身につけたスペイン語の知識をもとに、スペイン語力のさらなる向上を目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等 第Ⅰ・Ⅱ期のスペイン語 1・2・3・4 またはスペイン語 Level 1a・1b の授業を終えている、もしくはそれに相応する基礎知識を有すること。</p> <p>授業内容 この授業では、初級文法知識を有する参加者を対象とした「中級文法の学習と会話練習および講読」をおこなう。</p> <p>文法事項に関しては、受講者の状況のみを柔軟に対応するよう心がける。現在のところ、動詞の過去時制（点過去と線過去、過去完了、過去未来完了）および接続法現在時制・過去時制を中心に毎回30分程説明する予定である。</p> <p>残りの時間で会話・講読といった実践力を高める練習をおこなう。毎回の講義で、1) 日常生活に関する簡単な Lectura や Dialogo を読む。2) 表現コーナーを設け、テーマに関連するスペイン語特有の表現を学ぶ。3) Lectura や Dialogo のテーマに関して予め用意された質問に答える。その他自分たちで質疑応答をする。会話練習は2～4人のグループ形式でおこなう。4) 余裕があれば、学期後半は多少難しい講読にもチャレンジしたい。これは参加者の状況に合わせて決定することとする。</p> <p>参加者は適宜配布される Lectura や Dialogo を読んでくる。</p> <p>なお、毎回最後に簡単な作文を書く。</p> <p>成績評価の方法 出席、授業への積極的な参加、随時おこなう理解状況確認小テスト、定期試験（70%）など総合的に評価する。</p> <p>教科書 教員が必要資料を予め配付する。</p> <p>参考書 寿里順平著『スペイン語の表現』東洋書店、寿里順平著『応用スペイン語文法』東洋書店、高橋覚二著『スペイン語表現ハンドブック』白水社、高橋覚二著『基礎スペイン語便覧』評論社、宮本博司著『スペイン語分類単語集』大学書林、山田義郎監修『中級スペイン語文法』白水社</p> <p>注意事項 毎回西和辞典を持参すること。</p> <p>受講者へのメッセージ 「どうしてスペイン語を選んだのか」と学生に聞くと、「先生はどうしてですか」と逆に聞かれる。私の答えは「ラテンアメリカ文化に関心があったから」である。要するに私の場合、スペイン語は目的を達成するための手段であった。</p> <p>さらに現地の大学院へ入学した。現地で、つまりメキシコでメキシコ人学生とともに授業を受けることになった。当然のことながら、スペイン語の読み書きが十分にできなければ話にならず、そしてそれは、外国語ではなく母国語と同じ意味合いを持たねばならなかった。私にとって、最良のスペイン語学習方法は、日々耳にし、目にするスペイン語をできるだけ理解し、そのまま覚え、使うことであった。子供が言語を覚えていく時のように、相手が使った表現を繰り返し、本や新聞で読んだ表現をそのまま使った。それが幸いしたのか、かなりナチュラルなスペイン語表現を身につけることができたようだ。</p> <p>残念ながら日本ではスペイン語と接する機会がなかなかない。そこでお勧めするのが映画鑑賞である。スペインはじめ、ラテンアメリカ諸国で制作された良い映画がたくさんある。一度覗いてみてはどうだろう。実際にスペイン語を聞く事ができるし、さらにスペイン語圏の社会や文化、独特の考え方など多くのことを学ぶことができるであろう。その他、日本映画のスペイン語字幕版や吹き替え版を見るのも面白い。こちらは日本では手に入らないと思うので、私の方に申し出ていただきたい。日本映画スペイン語字幕版であれば 何本か手元にあるので、お見せできる。</p> <p>「Disfrutemos en la clase」</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
朝鮮・韓国語 Level 1a	崔昇浩	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 新たに朝鮮・韓国語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、朝鮮・韓国語の基礎を学ぶための科目である。 バランスよく朝鮮・韓国語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なう。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「朝鮮・韓国語に触れる」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 朝鮮・韓国語 Level 1bまで履修することが望ましい。</p> <p>授業内容 この授業では次のような能力を養成する。 書記法…ハングル（朝鮮・韓国文字）の構成を理解し、確実にかつ美しく書けるようにする。 発音…韓国語の母音と子音を正しく発音し聞き分けられるようにする。特に、日本語にはない終声（パッチム）や平音・濃音・激音の区別などに慣れるように練習する。また、朝鮮・韓国語リズムやイントネーションで文章を発話できるようにする。 ハングルの正しく読むための音韻規則のうち連音化、有声化、鼻音化など基本的なものを着実にマスターする。</p> <p>文法…初歩的文法を学習する。 学習する主な文法事項は次の通りである。 ・用言の種類による文種（指定詞文・存在詞文・形容詞文・動詞文） ・機能別の文種（平叙文・疑問文・命令文・勧誘文・感嘆文） ・否定文（長い否定と短い否定） ・数詞（漢数詞・固有数詞） ・基本的な助詞（「は」「が」「を」「も」「に」「で」「から」「まで」「と」などに相当するもの） ・文体（あらたまった丁寧体・くだけた丁寧体） ただし、機能別の文種のうち命令文、勧誘文、感嘆文、文体のうちくだけた丁寧体については、必要に応じて簡単に習う程度にとどめる。それについて詳しくは朝鮮・韓国語 Level 1bで学習する。</p> <p>口頭表現力…日常よく用いられる典型的な挨拶表現などを適切に使えるようにする。</p> <p>成績評価の方法 出欠状況、小テスト及び期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験の成績が総合成績に占める割合は6割程度とする。</p> <p>教科書 自家版教材およびプリント教材（教室で配布する） 参考書 必要なものは授業中に指示する。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2a	李光濟	金(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する科目である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。 また、言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 に引き続き、さらに朝鮮・韓国語世界の理解を深める。目標は「朝鮮・韓国語を活かす」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 の履修者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくてもかまわない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p>授業内容 この授業では朝鮮・韓国語 Level 1 あるいは言文 I の学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現をできるようにする。 学習事項は、次のような表現形式である。（ただし、順不同。時間の都合により項目の出し入れもある） 1) 疑問…知りたいことを相手に尋ね、またそれに答えるための種々の表現形式を学習する。疑問形式は対話において最も重要な役割を果たし、ヴァリエーションも最も豊富であるので、特に重点を置いて</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
朝鮮・韓国語 Level 2a	李 光 濟	金(4)	20	て練習する。 2) 否定…陳述を打ち消すための表現形式を学習する。 3) 感嘆…感情を込めて表現するための形式を学習する。 4) 依頼・指示・禁止…相手に何かをさせよう、あるいはほしくないようにするための表現形式を学習する。 5) 願望…自分がやりたいことを相手に伝える、あるいは相手の願望を尋ねるための表現を学ぶ。 6) 勧誘・提案…相手と共同して何かをしようというときに用いる表現を学習する。 7) 意志・予定…意志や予定を表す種々の表現に習熟する。 8) 推量・推測…出来事を推し量るときの表現形式を学習する。 9) 引用・伝聞…他人の言説を別の人に伝えるときの表現形式を学ぶ。 10) 可能・不可能…能力の有無、許可のあるなしを表す表現を学習する。 成績評価の方法 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験は韓国語による面接試験とし、その総合評価に占める割合は6割程度とする。 教科書 プリント教材。 参考書 必要な物は授業で指示する。 注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。
朝鮮・韓国語 Level 2a	鄭 芝 淑	木(5)	20	本講義の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する科目である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。 履修条件・関連する科目等 言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 の履修した者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくても構わない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。 授業内容 この授業では朝鮮・韓国語 Level 1 あるいは言文 I の学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現を使えるようにする。 学習事項は、次のような表現形式である。(ただし、順不同。時間の都合により項目の出し入れもある) 1) 自己紹介…他人に自分を紹介するための基本的な表現形式を学習する。 2) 人の紹介…他人を紹介するための様々な表現形式を学ぶ。 3) 出会いと別れ…様々な出会いと別れの場面に用いられる表現を学習する。 4) 約束…人と何かを約束するとき用いる表現を学習する。 5) 道聞き…人に道を尋ねるときに使われる代表的な表現形式を学ぶ。 6) 電話…電話での対話の基本形式に習熟する。 7) 宿泊…宿泊の予約や宿泊施設内での対話用いられる表現を学習する。 8) 食堂で…食堂で料理を注文するなど従業員との対話に使われる表現を学習する。 10) ノレバンで…カラオケに行き歌を楽しむ時の対話を学習する。これについては、受講者の希望があれば実際にカラオケで行うかも知れない。 成績評価の方法 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。期末試験は韓国語による面接試験とし、その評価に占める割合は6割程度とする。 教科書 プリント教材。 参考書 必要な物は授業中に指示する。 注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。
ポルトガル語 Level 1a	重 松 由 美	木(2)	20	本講義の目的およびねらい 本授業は、初めてポルトガル語を習う人だけでなく、あらためて基礎から学び直したい人も対象としている。ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
ポルトガル語 Level 1a	重松由美	木(2)	20	<p>な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介も併せて行っていきたい。</p> <p>履修条件・関連する科目等 特になし（院生及び教職員も受講の対象とする）。</p> <p>授業内容 ポルトガル語 Level 1aの授業は、ポルトガル語の基礎を習得するクラスである。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返す。また、状況を設定しての日常会話の練習を行い、基礎的な会話力を身に付けていく予定である。</p> <p>成績評価の方法 授業への参加態度と定期試験の結果が総合的に判定される。</p> <p>教科書 必要資料を配布する。</p> <p>参考書 葡日・日葡辞書が必要である。参考：『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。</p> <p>注意事項 毎回、辞書を持参すること。</p> <p>受講者へのメッセージ 私はスペイン語の知識を持っていることから、スペイン語既習者には両言語の相違点や共通点を比較して説明することができる。この教授法により、効果的にブラジルポルトガル語を習得できるであろう。</p>
ポルトガル語 Level 1b	重松由美	木(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい ポルトガル語 Level 1bは、初めてポルトガル語を習う人だけでなく、あらためて基礎から学び直したい人も対象としている。ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介も併せて行ってゆきたい。</p> <p>履修条件・関連する科目等 ポルトガル語 Level 1aの継続授業である。それを受講していない場合でも、ポルトガル語の基礎的な知識（参考：動詞の現在形活用の知識）を身に付けた人であれば、だれでも受講可能である。院生及び教職員も受講の対象とする。</p> <p>授業内容 ポルトガル語 Level 1bの授業は、ポルトガル語の基礎を習得するクラスである。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返す。また、状況を設定しての日常会話の練習を行い、基礎的な会話力を身に付けていく予定である。</p> <p>成績評価の方法 授業への参加態度と定期試験の結果が総合的に判定される。</p> <p>教科書 必要資料を配布する。</p> <p>参考書 葡日・日葡辞書が必要である。参考：『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。</p> <p>注意事項 毎回、辞書を持参すること。</p> <p>受講者へのメッセージ 私はスペイン語の知識を持っていることから、スペイン語既習者には両言語の相違点や共通点を比較して説明することができる。この教授法により、効果的にブラジルポルトガル語を習得できるであろう。</p>
ラテン語 Level 1a	有川貫太郎	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい ラテン語を現代の外国語のように学ぶ、というのがこの授業のコンセプトです。ラテン語の習得はかなりの量の語形変化を伴いますが、日常使われる言葉として学んでいけば、息長く続けることができると思います。この教材の全体は、ローマ時代にタイムスリップして「生きた」言葉としてラテン語を学び、最終的にはヴェルギリウスなどの作品の原典に至る構成になっています。授業ではラテン語学習のその長いプロセスの導入ができればと思っています。ラテン語を学ぶことは、文系理系を問わず、西欧文明の基礎に触れる機会になることでしょう。</p> <p>履修条件・関連する科目等 自由に参加してください。ただし参加した以上は休まないことが大切です。</p> <p>授業内容 教材は、ポンペイを舞台にしています。商人カエキリウス（実在した人物で、ポンペイに行けば今でもその家の跡を見ることができます）とその家族（妻、息子、使用人など）が登場し、彼らの生活と市民たちの日常が紹介されていきます。時あたかも紀元79年、やがて火山が爆発して……教材全体はユニット1から5まであり、ユニット5では原典を扱っていますが、この授業では前後期2学期で、はじめの第1冊、ユニット1を終了し、できればユニット2のはじめまで進む予定です。本文、文法解説はすべて扱います。前期では名詞、代名詞、形容詞、動詞などの基本的なきまりから少しずつ学んでいきます。</p> <p>学習内容にあわせてローマの文化や社会が美しいカラー写真とともに紹介</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ラテン語 Level 1a	有川 貴太郎	木(4)	20	<p>されています。ラテン語の背景となっている古代ローマ社会にいっそう興味をおぼえることでしょう。</p> <p>成績評価の方法 出席と期末試験によって総合的に評価します。</p> <p>教科書 CAMBRIDGE LATIN COURSE. UNIT I (North American Edition)</p> <p>参考書 授業で紹介します。またインターネットでもラテン語学習に役立つサイトがあります。探索してみましょう。</p> <p>注意事項 教科書は、原則として各自ネットで入手してください。方法については授業で紹介します。</p>
古 典 ギリシア語 Level 1a	有川 貴太郎	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 古典ギリシア語を現代の外国語のように学ぶ、というのがこの授業のコンセプトです。使用する教科書もそのような方針で作られています。古典作品を巧みにアレンジした教材を読みながら、さながら古代ギリシアにタイムスリップして、当時の「生きた」言葉として学ぶように工夫されています。ギリシア文明はヨーロッパ文化の基底のひとつで、その重要性は改めて述べるまでもないでしょう。身近な例では私達の日常語にもギリシア語由来の語が意外に多くみられます。パソコン関連ではディスク、アイコンなども。ギリシア語の学習は文系、理系を問わず、学問の源流を知る上で有用なものになるでしょう。</p> <p>履修条件・関連する科目等 とくにありません。少しでも興味のある人は自由に参加してください。</p> <p>授業内容 黒海から荷物をのせた船が今アテネの港ピレウスに入ろうとしている。途中から吟遊詩人も乗りこんできた。遠くには女神アテネ像が燦然と輝くアクロポリスの丘も望まれる。その船上のシーンからこの教材は始まります。「こちらに来てごらん、アクロポリスが見えるよ。」</p> <p>しかしまずは「アルファベット」から（もちろんギリシア語の最初の文字、アルファとベータからきた語）。その発音と書き方とを習得します。その上で、やさしい対話とナレーションからなる教材にそって多くの表現にふれながら、言葉のきまりを確実に学んでいきます。さしあたりは冠詞、名詞、動詞の基本的な変化が重要です。教材には朗読CDもありますので、耳からも「生きた」ギリシア語に触れましょう。</p> <p>成績評価の方法 平常点（出席、提出課題など）と期末テストによって総合的に評価します。</p> <p>教科書 Reading Greek: Text and Vocabulary (second edition) (Joint Association of Classical Teacher's Greek Course)</p> <p>参考書 授業で紹介します。</p> <p>注意事項 教科書は原則として各自ネットで購入して下さい。方法については、授業で紹介します。必ず second edition を購入すること。</p>
オランダ語 Level 1	小坂 光一	水(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい なるべく多くの言語に触れていただくことを目的としている。</p> <p>履修条件・関連する科目等 もっぱら口頭練習をするので、毎回出席できることが履修の条件となる。</p> <p>授業内容 オランダ語は英語とドイツ語の中間のような言語である。従って、英語かドイツ語のできる人にとっては極めて学びやすい言語である。両方知っていればなお学びやすい。</p> <p>すなわち、語彙に関して言えば英語とかなり似ている。フランス語的な単語も散見される。文法の面ではドイツ語とよく似ている。ほとんど同じと言っていいくらいである。ただし、発音は独特である。だから、一番むずかしいのは発音かもしれない。</p> <p>この授業ではオランダ語会話入門とでもいべき授業をし、オランダ語会話への導入を図りたい。</p> <p>授業の進行は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語ごとの練習 2. センテンスごとの練習（初めはコンマごとに区切って練習する） 3. スピードをある程度守った練習 4. 文法事項を扱った練習 5. プリントを使った、かなり自然な会話テキストの練習 6. 期末近くになって、なお時間に余裕がある場合は、プリントを使って総合練習をする。

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
オランダ語 Level 1	小坂 光一	水(2)	20	<p>予習は特に必要としない。ほとんどを授業中に解決するという心構えを持って欲しい。</p> <p>成績評価の方法 授業に対する平常の貢献度 (30%)、授業中の積極性 (40%)、普段の口頭表現のできばえ (30%)。ただ参加するだけでは良い評価は得られない。</p> <p>教科書 『ニューエクスプレス オランダ語』(白水社) 及びプリント教材</p> <p>参考書 オランダ語辞典 (講談社) 辞書は授業のためには必要ありません。</p> <p>注意事項 授業に來たり來なかつたりする人、授業中にただ聞いているだけの人は絶対にお断りします。</p> <p>受講者へのメッセージ 外国語というのは完璧をめざしたら使えるようになりません。間違いを恐れずに思い切ってオランダ語を口にする練習をしましょう。母語でない以上完璧になるはずがないと思って練習してください。予習は通常は必要ありません。むしろ、復習に重点を置いて下さい。</p>
イタリア語 Level 1a	A. Sciucca	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 旅行、留学などでイタリア滞在を考える学生に基本的な会話表現を習得してもらうとともに、イタリア理解の入り口を提供することをねらいとする。具体的には、空港、ホテル、買物などの場所において自分の要求を伝えるのに必要な表現を自在に使い、それに対して予測される返答を確実に理解することをはじめ、最終的には、様々な場面におけるイタリア人の思考・行動の特性を感じ取るための言語的な基盤を作ることを目指す。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、アルファベットおよび数詞 2. 名詞 (男性・女性) とその活用 3. 冠詞 (不定冠詞・定冠詞) 4. 形容詞 (第一種形容詞・第二種形容詞) 5. 動詞 (are/ere/ire 動詞) と直説法現在形 (規則動詞) 6. 動詞 (are/ere/ire 動詞) と直説法現在形 (不規則動詞) 7. 前置詞 8. 直接代名詞 9. 再帰動詞 (are/ere/ire) の直説法現在形 (規則動詞) 10. 過去分詞 (規則動詞・不規則動詞) と近過去 (are/ere/ire) 11. 他動詞と自動詞 <p>* 随時、映画やTV番組の中から会話を抜粋し、生きたイタリア語表現に触れるとともに、イタリア人の価値観や志向、行動様式などについて考える機会を与える。</p> <p>* 中間期にミニテストを実施する。</p> <p>成績評価の方法 期末テスト60%、中間ミニテスト20%、出席状況・履修態度20%</p> <p>教科書 Loredana Chiappini & Nuccia De Filippo "Un giorno in Italia" vol.1 (L'italiano per stranieri: Bonacci editore)</p> <p>参考書 必要に応じて授業で紹介する。</p> <p>注意事項 イタリアは深い歴史と文化を持った国です。表層的なイタリア理解に終わらぬためにも、熱意を持って授業に取り組んで下さい。</p>